

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助活動完了後における三連はしご縮てい時の中落ち(二連目の落下)による隊員の受傷事案
3. 体験した事例の中心的要素	崖下の要救助者を救出するため、地上(畑)にて三連はしご2基を伸てい後、1基を崖下へ投入し、他の1基は使用しなかった。救助完了後、使用していない三連はしごをアスファルト面に移動し縮ていする際、水平状態では畑の小石や泥が噛み、うまく縮ていできなかったため、少し起ていし干渉を解除しながら縮ていしていたところ、三連はしごの二連目が中落ちし、保持していた隊員の左手母子が一連目と二連目の補強板に挟まれ負傷したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	本事故の原因は、注意力の散漫、危険因子の排除不足、資機材の諸元・性能の認識不足、対応力不足等が挙げられ、その全てにおいて欠如していたことが事故に繋がったものと考えられる。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和3年10月9日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外:車両停車位置(市道)から離れた畑及び竹藪(崖下)
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	(機器等)巻き込まれ、はさまれ
7. 事例体験時の活動	救助撤収
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	資機材準備・撤収
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[25]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[5] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[39]歳、勤続年数[21]年、現場経験年数[13] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

A horizontal row of 28 solid black circles, evenly spaced, spanning the width of the page below the title.

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A, B	三連はしごを畑からアスファルト面へ移動	
経過2	A, B	三連はしごを少し起ていし、畑の小石や泥嚙みを解除しながら縮てい	
経過3	A	三連はしごの二連目が中落ちし、左手母子を一連目と二連目の補強板で挟まれ受傷	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知らなかった 集中力、注意力がなかった 資機材の操作がうまくいかなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

資機材の諸元に対する理解の未熟さと、要救助者を救出できた達成感からくる注意力の欠如。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

部隊の現場活動が長時間となった場合は、適宜休憩させ注意散漫とならないような措置をとるとともに、隊員個人に対して、声掛け、指差し呼称等を励行させ、帰署までが任務という自覚を再認識させた。

○装備・資機材の対策について

本事故事案を当消防本部のヒヤリハットデータベースに登録することで、各所属へ事故発生状況を共有し、資機材の諸元、取り扱いを十分に熟知させ、再発防止を図った。

○活動環境の対策について

現場の状況により、使用資機材の普段と異なる使用を行う時は人数を増やす等、多くの目で確認を行い安全管理を徹底することとした。

○指揮・情報伝達の対策について

安全管理の目的である、安全を保持するためあらゆる手段を講じ、絶対に受傷者を発生させないという共通認識の下、一人一人がその重要性を自覚できるよう周知徹底した。